き議題と思う．以上現状をお知らせする．

（**司会**）神子さん全般的なことで何か．

（**神子**）天気の論文のレビューをした経験から気のついたことを一つ．高橋さんの追試ということになるが何かやるときに昔やってあることや，外国でやってあることを参考にするということが欠けているように思われる．そこで文献を整備しておくことが必要になるがそれをうまくやるのは管区の調査課にお願いしなければならない．

（**司会**）調査課に申し込んでもらえれば管区内の昔からのものは全部あります．

（**神子**）地域気象ハンドブックのようなものでなくて，何かやるための基礎となるような文献という意味だ．

（**司会**）照会してもらえばコピーして送ります．近藤さんどうぞ．

（**近藤洋輝**）現状では各地方でお互いにどんな研究をやっているかわかりにくい．同じ分野の人達が交流出来る機会が必要と思われる．現状では学会しかないがもっと小じんまりしたグループの集まりでもいいから考えられていい．

（**司会**）和田さんどうぞ．

（**和田美鈴**）地方の人達から気象研究所の研究活動に対する卒直な批判をこういう機会に受けたいと思う．

（**司会**）時間がきたので主催側からまとめをお願いします．

（**山岸**）おそくまで活発なご討論ありがとうございました．まとめということではなく，自分の考えをのべさせていただきます．

研究には，組織をつくり，業務ベースにのせることも大切であるが，やはり本人の興味と意欲が基本だと思う．調査や研究には多くの労力を要し，困難をともなうが，それを個人の犠牲というならば，犠牲なしには研究活動は進んでゆかないと思う．

学会などへの参加がむずかしいという話がでましたが，私がかつて大阪管区気象台にいた時，月1回日曜日に開かれる京大の雑誌会には，希望者は出張扱いで出席できた．このようなものや学会は，気象庁と全く別な組織だからと突放してしまうのも，1職員の技術向上のために旅費を出して出席させるというのも，1つの事柄に対する両面の見方だと思う．研究意欲をもった人達が，そのような雰囲気と力をつくってゆく必要があるのではなかろうか．

2年程前銚子気象台へ出張した時，昔は銚子の台長は，県知事の次の次（？）位にみられたが今はすっかり地盤沈下ですという，冗談めかした懐旧談をきいたことがあります．そのような良き時代は，私には想像もつきませんが，気象台が単に惰性的に天気予報を出していると，ますますそうなりそうな気がします．地域に密接した問題の調査研究に取り組み，積極的にセールスしてゆく態度が必要とされるように思います．そういう意味で地方における研究はますます重要になると考えます．

本日は，種々の都合で，主催側の講演企画委員からの出席者が少く，ご迷惑をおかけしたと思います．座談会の運営にあたってくださった新潟気象台の皆様と司会者にお礼申し上げます．

航空気象月例会のお知らせ

期　日：昭和48年2月23日（金）12時30分～17時

会　場：東京航空地方気象台研修室

講演発表：

1）久保　勉（新東航）
　成田空港における霧の特性（20分）

2）草野和夫（福航測）
　透過率の変動と重力波の役割（20分）

3）土屋　清（気象庁）
　山岳波とカルマン渦（30分）

4）花山俊雄（東航）
　Severe turbulence に遭遇した航空機に関する統計的調査（15分）

5）向田広志（東航）
　夜間視程目標としての航空障害灯（20分）

6）竹内利雄・仲野　黄（名大空電研）
　冬の北陸地方の雷について（15分）

7）中島大八（日本航空）
　運航と気象（30分）

8）石崎秀夫（全日空）
　パターンの移動と空港周辺および航路上の気象状態の予想法（20分）

9）茂木機長・宮本正明（全日空）
　大分空港低層の風の特性（15分）